

令和5年度 医学部教育センター一紀要



目次

あいさつ	
医学部長	2
医学部教育センター長	
特集	
研究のできる臨床医を目指す学生へのサポート	4
自分の殻を破る — The CRACK 開設まで	6
委員会報告	
教育センター会議	9
教育センターミーティング	10
教務委員会	12
カリキュラム委員会	15
臨床実習委員会	17
医学部FD委員会	20
地域医療教育委員会	21
学生生活委員会	22
学修支援委員会	25
医学基盤教育委員会	28
医学部 IR 委員会	29
研究業績	
論文	31
著書	32
学会発表	33
講演・ワークショップ	39
その他	41
編集後記	42

医学部長あいさつ

近畿大学医学部 学部長
血液・膠原病内科教室 主任教授
松村 到

私が医学部長を拝命して6年目になりますが、2年目にあたる令和2年4月に医学部教育センターを開設し、この4月で4年を経過しました。当初、専任教員は三井良之教授と池田行宏准教授の2名で細々と始まりましたが、現在は、平野豊准教授、藤田貢准教授、藤田裕規講師が加わり、専任教員5名の体制となっています。現在のセンター長は教務委員会委員長の梶博史教授で、副センター長はカリキュラム委員長の有馬 秀二教授にご担当いただいております。

本センターには、教育プログラム開発部門、臨床実習部門、学生評価部門、学修支援部門、地域医療教育部門、教員育成部門、医学基盤教育部門、学生生活部門が設置されています。梶センター長の指揮のもと、当センターの専任教員が中心となって、他講座の教員と共に、精力的に活動いただき、どの部門も当医学部の教育の質の保証、継続的改善に欠くことのできない存在となっています。

昨年度の紀要にも記載しましたように令和5年度からCBT、Pre-CC OSCE が公的化されました。また、令和6年9月に予定されている分野別認証の2巡目受審に対応するため、令和5年度には3-4学年の教育ユニットにおける統一試験の導入、教育アウトカムの評価、ルーブリックを用いた客観的評価、基本的な診療科におけるminiCEXの導入、CC-EPOCにおける学生へのフィードバックなど、数多くの教育改革が行われました。これらの実行にあたって、教育センターの先生方にはその中心として実行案を考え、また、実行にあたっても中心的な役割を担っていただきました。実際の活動内容が本紀要にまとめられていますので、本紀要を読んでいただくと、教育センターが何を目的としてどのような活動をしているかがよく理解できます。これまで医学教育に興味のなかった先生には、この紀要を是非読んでいただければと思います。

このように教育の質の向上のための改革を進めていますが、まだまだ道半ばです。教育センターの教員だけでなく、医学部の全教員の負担がさらに増えてまいります。私は、医学部における教育が教員にとってのボランティア活動ではなく、医学部教員の本務であることをきちんと認識し、教育活動がきちんと評価されるよう医学部のルールを改善してきました。また、今後も継続して参ります。

最後になりますが、当医学部の教育に関わっていただいている教育センターの先生方、その他の教員の先生方、学務課を中心とする事務職員の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

医学部教育センター長あいさつ

近畿大学医学部 教育センター長
再生機能医学教室 主任教授
梶 博史

令和2年4月に医学部教育センターが設置されてから、まもなく4年となります。この4年間で、教育センターの活動は順調に軌道に乗り、基盤教育部門を除いた専任教員も5名の体制となり、活発に活動しています。

医学部の教育は、従来は、各講座が独自の方法で運営し、6年間を通しての系統だった教育プログラムや学修評価が行われているとは必ずしも言えない状況にありました。昨今、大学教育や企業活動の発展には、その内容やシステムを継続的に点検・評価した上で、改善・質向上をめざしていくという内部質評価が求められるようになってきました。医学教育においても内部質評価が求められ、米国医師免許取得のためのECFMG受験に必要な医学部教育の国際認証評価を契機として、日本医学教育評価機構(JACME)が設置されました。平成29年度に近畿大学医学部は、JACMEの評価を受審し、認証を受けることができました。JACMEの評価は7年ごとに受審することが定められています。近畿大学は、今年、令和6年9月にJACMEの2巡目の評価を受審することになっています。そのために、前回受審後、教育プログラム・学修評価を中心に、長い期間をかけて、改良を行ってきました。その中で、医学部教育センターが設置されてからは、JACME受審を視野に入れた医学部教育改革においても、教育センターは重要な役割を果たしています。

この1年間の教育センターの重要な取り組みの成果としては、臨床実習におけるCC-EPOCの普及、教育アウトカム評価の開始やE-ポートフォリオ導入に向けての準備、ICT教育プログラムの検討開始など、かなりの進歩が見られました。さらに、Pre-CC OSCEの公的化に対応して、近畿大学内のみならず、他大学の外部評価員としても活躍していただいています。

令和6年度のJACME受審を迎えて、教育センターは、さらに医学部教育の質の向上に向けて、多くの教員・事務担当者の方々のご協力のもとに、貢献していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

[特集]

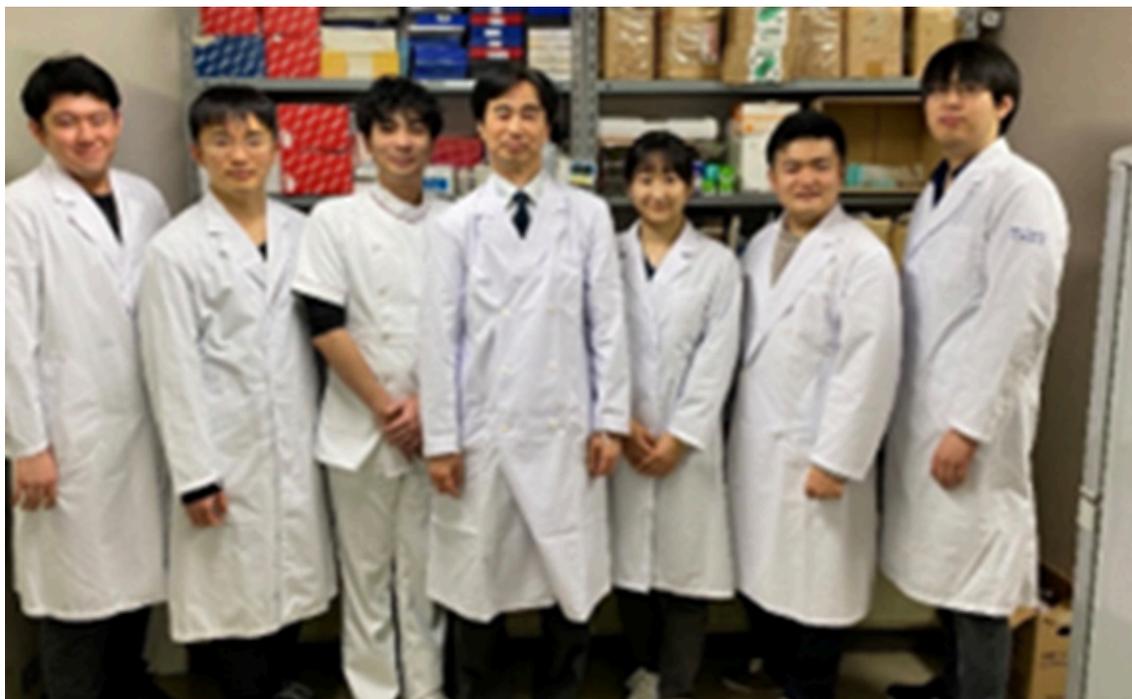
研究のできる臨床医を目指す学生へのサポート

医学基盤教育部門 特任教授

岡田 清孝

学生の入学時でのオリエンテーションや「医用化学」の講義開始時でのアンケートでは、近畿大学の医学部に入学したほとんどの学生が「臨床医」を目指していることを示しています。また、その中には、毎年20-30名ほどの学生が「授業とは別に研究をしてみたい」と答えています。

私はこの10年程で10名ほどの学生と一緒に研究ができました。学生の研究のきっかけは、私の担当していた「医用化学」の実習であったり、1学年の「医学概論」での講義コースの基礎研究に関する講義や演習コースの各研究室配属であったり、2学年での「基礎配属実習」であったりで様々のように思います。教員として研究者として学生が「研究をしてみたい」という思いをサポートすることは大切であると思います。

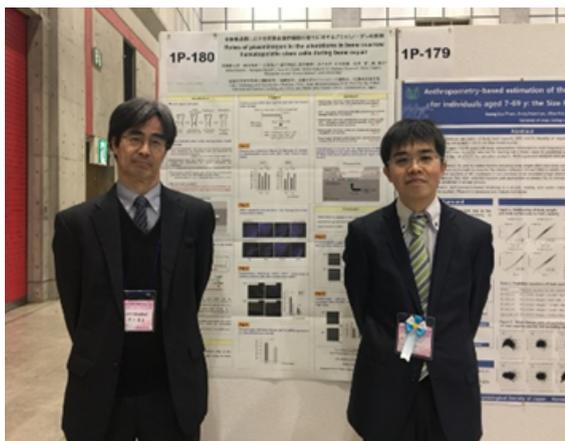


Newton別冊(2019年)に掲載

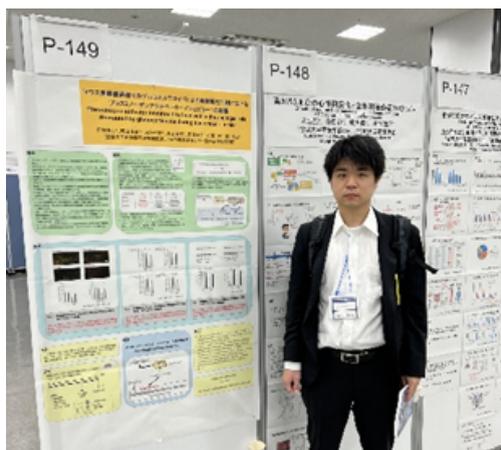
研究時間は、個々の学生の勉強・クラブ活動などの学生生活に配慮しながら研究スケジュールを立て行いました。学生によっては、週1回であったり、夏休みや春休みにまとめて行う者もいました。一緒に研究を行う際は、必ず実験の基本的操作を確実にできることが大切です。マイクロピペットの操作法や天秤による重量の測定、溶液の希釈など基本的な操作ができるようになってから実際の実験を行いました。多くの学生は、遺伝子組換えや動物実験の許可を取り、各テーマに従いPCRやウエスタンブロット、組織切片の免疫染色、細胞培養などの生化学・分子生物学の基本的操作を取得しました。このような取り組みは、学生が将来臨床医になった際に学生時代

行った研究が基本的実験操作や実験の組み立て方、データの解釈から何を得たかなど自分で研究できるようになる助けになると確信しています。

学生と一緒に行った研究成果は、七報ほどの論文に発表できました。もちろん、学生の名前も共著者として入っています。自分で行った研究結果を形として残すことは大切なことだと思います。また、2016年度と2023年度の日本生理学会で児嶋耕太郎さん(現在、宮崎大学小児科)と丹羽悠斗さん(現在、4学年)が研究成果を発表しました。



第94回日本生理学会(浜松)



第101回日本生理学会(小倉)

日本生理学会では、生理学の研究をより一層発展させる目的としていろいろな対策がとられています。その一つとして、若手研究者を育てる目的で高校生や学部学生の発表を推奨しています。丹羽さんが発表した第101回日本生理学会では、学部学生から56演題が出されていました。

また、6年程前より小・中・高校生向けの「出前授業」や「実験教室」を行ってきました。今年度は、大阪狭山市教育委員会を通して依頼された市立第七小学校での3年生(9月)、6年生(11月)向けの「理科おもしろ実験教室」を同所属の博多義之講師と一緒に2回行いました。その際、大学の許可を得て希望した1学年の学生4名も一緒に参加しました。学生は、準備から参加当日は小学生から「お兄さん先生」「お姉さん先生」と呼ばれながら楽しく指導していました。校長先生や担任の先生からは、とても評判が良く来年度以降も続けて欲しいとの依頼を受けました。終了後、参加した学生は、「大変楽しかった」「次回も参加したい」「教えることの楽しさを知った」など明るい笑顔を見せてくれました。このような学生の課外活動のサポートも重要に思います。今後も、博多先生と継続していきたいと考えています。

(<http://dai7-es.osakasayama.ed.jp/index.cfm/1,9887,35,html>)

学生と一緒に研究していて一番気を付けた点は、実験が中途半端に終わらないことです。実験が上手くいった時の学生の「笑顔」がとても大事だと思います。実験は必ずしも上手くいくとは限りませんが、学生時代に成功体験を経験できることは、将来の「研究のできる臨床医」に大きく役立つと思います。

[特集]

自分の殻を破る — The CRACK 開設まで

医学基盤教育部門 教授

松田 学

医学部1学年の学修支援の一環として、令和5年6月から放課後学修室「The CRACK_the class room after classes in Kindai-Med」を開設した。これまでの経緯と所感をここに記しておきたい。

まず、開設の直接の契機となったのは学生からの相談だった。5月の連休が明け、概ね部活も始動し、1学年の学生も学内での居場所が定まりつつある頃は、居場所が見つからないことに悩む学生からの相談も多い。べつに学内で無理して友達をつくる必要もないのではあるが、華やかな大学生活を夢見て受験勉強に勤しんできた新生入生には、そんな正論を伝えても慰めにもならない。今年度は、一緒に勉強する友達をつくる切っ掛けがつかめないという学生が何名かいた。一昔前なら、みんなを飲み会に誘えば済む話なのだが、新型コロナ禍が続く中、そのような風習も廃れてしまった。さて、どうしたものか。

じつは、学生たちが勉強仲間をつくりたいと思った原因の一端は、私にある。下表は、数年前に『細胞・形態学』の科目内で実施した勉強スタイルに関するアンケートの結果である。どうやら、一人だけで勉強するより、グループでの勉強機会をもつ学生の方が好成績らしい。グループ学修では、①情報弱者になりにくい、②勉強を継続する励みになる、③会話が知識の定着に役立つ、といったメリットがあると予想される。自宅で勉強することも大切だが、グループでの学修を取り入れることは近大生の肌に合っていると思われる。そんな話を授業内の雑談で口走った。やはり私が責任をもって機会をつくらねばなるまい。

表. 放課後の学修形態と期末試験の得点
(2019年度科目内アンケートより)

学修形態	一人で勉強	一人で及びグループで勉強	グループで勉強
人数	20人	40人	58人
平均点	60.9点	65.9点	60.0点

遡ること数ヶ月、令和4年度の3月に第4回全学FD・SD研究集会が開催された。テーマは「学修支援」。授業外での学修支援の取り組みとして、理工学部「基礎サポ」や工学部「学修支援室」が紹介された。いずれも学生が勉強したいときに勉強でき、つまりいたら気軽に質問できる場をつくりたいという、教員の熱い想いの溢れた素晴らしいプロジェクトであった。学期中はほぼ毎日教員がスタンバイし運営されているという。その労力はいかばかりかと想像するに、一言で表せば、感動した。しかし同時に、今の医学部のマンパワーではとても無理であるという考えに安住し、行動するこ

とを諦めていた自分がいた。学生からの要望を受け、当時溜息とともに心の中にしまい込んでいた思いが湧いて、できることから始めてみようという決断に至った。

医学生物系科目の学修サポートを中心に据える。そうすれば、私一人で始められる。さっそく、週1回木曜16時40分から2時間程度の予定で放課後学修室を開くことを学生に伝えた。初回には、十数名が第2講義室に集まった。質問は予想以上に多く、予定を大幅に延長し21時半くらいまで質問対応にあたった。一方で、質問の合間には私も講義準備などの作業に集中できる時間をみつけられることがわかり、このペースなら続けられる見通しがついた。とはいえ、自分は意思が弱い。個人的な取り組みのままでは長続きしないおそれがある。そこで学修支援委員長の栗田教授にご相談し、学修支援委員会公認の取り組みに格上げしていただいた。栗田教授からは激励のお言葉とともに「放課後学修室」ではカッコよくないというご助言を頂いて、「The CRACK」という愛称を捻り出した。「crack」には、ひび割れや殻を破ることから転じて、難題を解く、課題を解決する、教科書を開く、といった意味がある。こじつければ学修支援にはもってこいの語である。

これで後に引けなくなったが、ほどなくして学生から、木曜は部活があるので他の曜日にも開設して欲しいとの要望があり、月・木、週2回 CRACK が始動した。参加者相互の交流のきっかけの一助になればと思い、名前にちなんで「前田のクラッカー」の大箱を据えて食べ放題とした。The CRACK は7月末まで全11回開催され、参加者は十数名程度、定期試験前には瞬間最大40名超の参加があった。成績が上位の学生だけではなく、下位層を含めて広いレベルの学生の参加があったのはとてもよかった。学生どうして教え合う場面も増え、開設当初の目的であった学修グループの形成も促された。そして、参加した学生は、本当に熱心に勉強をしていた。これまでは「学修支援策」といえば、どうしても成績不良の学生の底上げに目が向きがちだったが、学生が知識や学力レベルに関わらず自分で勉強をしたくなった時に思いっきり勉強できる環境を整えることが、学修支援の王道であると実感した次第である。

後期は、定期的な The CRACK の開催を断念した。解剖学の実習終了時刻が不定期だったこともあるが、前期の The CRACK のおかげで勉強グループが形成されたので、あまり需要がないと判断されたためである。その代わりに、解剖学研究室の長野先生にご協力いただき、人体構造や細胞・形態学の試験の少し前にポイントを解説する不定期な学修会を開催した。毎回十数名の参加者があり、学修の方向性を定め知識を定着させるには有意義な機会となった。



写真. 後期 The CRACKの風景

今年度、一旦は諦めていた学修支援策を開始した事は、私にとっても自分の殻を破る、まさに CRACK なチャレンジだったといえる。The CRACK は来年度も開設する予定である。対象を1学年だけでなく2学年にも広げ、継続的に勉強する切っ掛けとなる場を提供したい。未筆ながら、私の思いつきで始めたことに栗田先生や長野先生を巻き込んでしまったことを陳謝するとともに、先生方のご理解と温かいご支援に深く感謝申し上げます。

[委員会報告]

教育センター会議

医学部教育センター長
再生機能医学教室 主任教授
梶 博史

医学部教育センター会議は、教育センターの各部門長と教育センター専任教員(医学基盤教育部門を除く)が参加する会議で、年に2-3回実施しています。教務委員会、カリキュラム委員会などの教学系委員会で議事にあげる前の重要な問題点について検討しています。今年度はJACMEの2巡目受審に対する対応についての検討を中心として、次の3回開催されました。

第1回 医学部教育センター会議

日時:令和5年4月20日(火)17:00～

場所:病院棟3階会議室

議事:

1. 臨床実習前OSCE公的化について
2. 教育アウトカム評価方法について
3. 1-4学年ポートフォリオの導入について
4. CC-EPOC記入状況について
5. 連携病院訪問とCC-EPOCの導入について
6. 模擬患者教育について
7. 教育アウトカム改訂に関連した教学的対応について
8. JACME2巡目受審への対応について

第2回 医学部教育センター会議

日時:令和5年7月18日(火)17:00～

場所:病院棟3階会議室

議事:

1. JACME2巡目受審への対応について

第3回 医学部教育センター会議 (医学部自己・点検評価委員会と合同開催)

日時:令和6年1月16日(火)16:00～18:00

場所:Zoom会議

議事:

1. JACME受審に向けた自己点検評価書の作成について

[委員会報告]

教育センターミーティング

医学部教育センター長
再生機能医学教室 主任教授
梶 博史

医学部教育センター教員(医学基盤教育部門を除く)内での、医学教育上の重要な情報の共有と、教育上の課題の検討、教員間のコミュニケーションを促進するために、毎月定例教授会の翌日夕方に教育センターミーティングを開催しています。本年度は下記の日程で開催しました。

第1回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年4月20日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第2回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年5月18日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第3回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年6月22日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第4回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年7月20日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第5回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年9月21日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第6回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年10月19日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第7回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年11月16日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第8回 医学部教育センターミーティング
日時: 令和5年12月21日(木)17:00～
場所: Zoom会議

第9回 医学部教育センターミーティング

日時: 令和6年1月11日(木)17:00～

場所: Zoom会議

第10回 医学部教育センターミーティング

日時: 令和6年2月22日(木)17:00～

場所: Zoom会議

第11回 医学部教育センターミーティング

日時: 令和6年3月14日(木)17:00～

場所: Zoom会議

[委員会報告]

教務委員会

教務委員長

再生機能医学教室 主任教授

梶 博史

例年通り、月に1回、定例教授会の前週の週に開催しました。医師国家試験結果の総括、総合試験、関西公立私立共通試験、Pre-CC OSCE、CBT、Post-CC OSCEの実施および合否判定、各学年の進級判定、6学年卒業判定、各種試験の作問依頼についての検討および教授会への提案を行いました。また、令和6年度のJACME2巡目受審に対応するためのさまざまな議事について検討しました。医学部諸規程および履修要項の修正を行いました。さらに、今年度も継続して新型コロナウイルス感染症への教務対応を検討し、教授会提案を行いました。以下に、試験判定や作問依頼以外の11回の委員会議事を示します。

第1回 教務委員会

日時:令和5年4月12日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 第 117 回医師国家試験の総括
2. 疑義申立てと回答のまとめ
3. 5月8日以降の授業・試験・臨床実習の公欠運用の変更について
4. 令和5年度教務連絡窓口担当について
5. 試験運用に関する変更案

第2回 教務委員会

日時:令和5年5月10日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 教育アウトカム評価方法について
2. 教育アウトカム説明について
3. 教育アウトカムロードマップレベル説明改訂案
4. Pre-CC OSCE公的化に向けた対策について
5. 生成系AIの活用について

第3回 教務委員会

日時:令和5年6月14日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. IR委員会解析結果
2. 改訂版教育アウトカムの各科目評価項目アンケート
3. 学修支援委員会報告

第4回 教務委員会

日時:令和5年7月12日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. E-ポートフォリオ計画
2. 地域枠、非地域枠別にみた入学後の成績および6学年試験結果と国試結果との相関について
3. 6学年の卒業判定に用いられるMCQ判定の妥当性の検証について
4. 臨床各論統合型試験における再試験について
5. 作問グループ以外の教員によるコース試験問題妥当性評価について
6. 授業評価について

第5回 教務委員会

日時:令和5年9月13日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 教育アウトカムロードマップ改定案
2. 令和6年度2学年から6学年教務日程
3. 医学教育ICT対応WGの設置
4. 欠席届添付書類について
5. 学修支援委員会報告
6. OSCE 運営委員会報告

第6回 教務委員会

日時:令和5年10月11日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 医学部教育に関する教員アンケート案について
2. 令和6年度1学年教務日程
3. 2022年度実施 卒業生アンケート集計結果報告
4. 学修支援委員会報告

第7回 教務委員会

日時:令和5年11月8日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 令和6年度以降の共用試験公的化運用への対応について
2. 臨床各論統合型試験の再試験について
3. 医学部教育に関するアンケート案
4. 2022年アウトカム改訂に伴うアンケート報告
5. Best and Good Teacher賞改革案について

第8回 教務委員会

日時:令和5年12月13日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 令和6年度4月以降の授業方法について
2. ルーブリックについて
3. JACME受審時の時間割案について
4. OSCE運営委員会報告
5. 学修支援委員会報告

第9回 教務委員会

日時:令和6年1月5日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 医学部諸規程および進級基準について
2. 医学教育アンケート結果

第10回 教務委員会

日時:令和6年2月14日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 学長賞・学部長賞候補について
2. 教育アウトカム評価方法アンケート結果
3. 試験問題の相互評価報告について
4. 学修支援委員会報告

第11回 教務委員会

日時:令和6年3月8日17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 入学試験および学生教育における利益相反(COI)管理
2. 4学年教務日程
3. 入学前の既修得単位認定
4. 医学部諸規程及び進級基準について
5. OSCE運営委員会報告

[委員会報告]

カリキュラム委員会

カリキュラム委員長

有馬 秀二

令和5年度も新型コロナウイルス感染症の影響による講義・実習の変更が懸念されましたが、周到な対策が講じられていたため大きな問題なく講義・実習を実施できました。1学年の講義も(火曜日のオンライン授業日を除いて)原則1教室での全員対面授業に戻り、令和6年度は4学年(令和5年度に唯一ハイブリッド授業を実施)を含む全ての学年で対面授業を実施できるよう準備を進めています。

医学教育モデル・コア・カリキュラムで採用された37の症候・病態からの臨床推論力を教育する目的で、診療科別ではなく臨床各論(ユニット)ベースの授業計画を作成しました。同一症候(病態)をユニット内の複数の診療科が水平統合を果たしつつ、アクティブラーニングの要素を取り入れる教育プログラムを構築し、令和5年度から開始いたしました。

また、令和5年度より臨床各論においては統合試験を導入し、各ユニット内で試験回数を2回以内に減らしました。試験回数の負担は減少しましたが、個々の試験範囲が大きくなり、学生の負担軽減に繋がったとは言い難く、改善していく必要があります。

令和5年度から労働法教育講義を開始し、令和6年度から地域医療講義を開始するなどカリキュラム改革を進めています。委員会以外の皆様からのご意見も広く求めていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第1回 カリキュラム委員会

日時:令和5年4月6日17:30～

場所:Zoom会議

議事:

1. 令和5年度カリキュラム委員会の学生委員と外部委員について
2. 令和5年度2学年テュートリアル担当教室について
3. 令和5年度学年別教育アウトカムについて
4. 講義資料配布部数について
5. 令和5年度からの労働法教育法について

第2回 カリキュラム委員会

日時:令和5年6月1日17:30～

場所:Zoom会議

議事:

1. 令和5年度カリキュラム委員会の学生委員について
2. 講義資料配布部数について
3. 令和5年度からの労働法教育法について

4. 令和6年度からの地域医療講義について
5. 医学部カリキュラム・学習環境調査(DREEM 調査)の結果

第3回 カリキュラム委員会

日時: 令和5年10月4日17:00～

場所: Zoom会議

議事:

1. 令和6年度1学年時間割と担当教員(案)について
2. 情報・科学技術教育について
3. 基礎医学・社会医学における水平的統合・垂直的統合について
4. 令和6年度医学概論について
5. 令和5年度からの労働法教育法について
6. 令和6年度からの地域医療講義について
7. 新カリキュラムツリーについて
8. 授業資料配布の運用方針について

第4回 カリキュラム委員会

日時: 令和5年12月6日17:00～

場所: Zoom会議

議事:

1. 令和6年度シラバスについて
2. シラバス作成に向けた教育アウトカムとディプロマポリシーの番号振り分けについて
3. 2024年度医学英語日程について
4. 令和6年度時間割作成について
5. 令和6年度からの地域医療講義について
6. 令和6年度の基礎系・臨床系テュートリアルについて
7. 新カリキュラムツリーについて

第5回 カリキュラム委員会

日時: 令和5年2月7日17:30～

場所: Zoom会議

議事:

1. 臨床実習前の技能教育と共用試験対策について
2. 令和4年度モデル・コア・カリキュラムに対応した臨床実習改革について
3. 令和4年度モデル・コア・カリキュラムに対応した講義改革について
4. シラバスの点検担当者について
5. 令和6年度労働法教育について

[委員会報告]

臨床実習委員会

臨床実習委員長

医学部教育センター 教授

三井 良之

改めてこの1年間の臨床実習委員会の議事を振り返ると、①コロナ禍で萎縮した診療参加型臨床実習をどのように回復させるか、②令和6年度のJACME審査に向け残された課題にどのように取り組むか、この2点に尽きていると思います。この2つの課題は、通底するところは診療参加型実習の実質化にあるとも感じます。コロナ禍では社会全体で人間同士のつながりの重要性が再認識されました。診療参加型臨床実習は、对患者さん、対指導医(指導医側からみれば对学生)の関係性を通じて、学修者自身が学びを獲得する営みです。臨床実習生には関係性から学ぶと言う姿勢をぜひ身につけてほしいと考えています。幸い、私たちはその支援のため、CC EPOCやGoogle Classroomなどのコミュニケーションツールを手に入れました。これらを有効活用するため、学内のFDだけではなく、教育関連病院向けの出張FDも行いました。多忙な業務の合間を縫うように、出張FDに協力頂いた池田先生、藤田先生、平野先生、学務課事務職員の皆様には改めて感謝の意を表したいと思います。そのおかげで、まだ、道半ばではありますが、ささやかな成果が上がりつつあります。

このほか、長年の課題であった臨床実習包括同意は、学生用電子カルテシステムの導入とともに、形にすることができました。新しい電子カルテシステムで、学生の学びの場は確実に広がっています。

臨床実習の教育アウトカムは一人の卓越した指導者によって達成できるものではありません。これからも、学生たちが臨床実習前とは異なった存在へと成長できるように、近畿大学医学部の教職員一丸となって取り組みたいと考えています。

第1回 臨床実習委員会

日時:令和5年5月8日(月) 17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 心療内科廃止に伴う臨床実習 I・II のローテート表の改変について
2. 5月8日(月)以降の臨床実習 I・II の実施について
3. 学生カルテ運用について(藤田貢先生)
4. CC EPOC について(池田先生)
5. 教育連携病院について(臨床実習連携に関するアンケート)
6. 臨床実習におけるChatGPT の使用について
7. 2023 年度臨床実習委員会スケジュール

第2回 臨床実習委員会

日時:令和5年7月5日(水) 17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 11月からの臨床実習シラバスと臨床実習教育アウトカム表示について
2. 心療内科実習廃止に伴う11月からのER実習について
3. 串本地域実習再開について
4. 電子カルテ記載のルールについて
5. 臨床実習同意取得拡大のお願い
6. 教育連携病院訪問報告について
7. CC-EPOC 入力状況報告
8. 臨床総論Ⅱ/実習の時間割について
9. 7月31日(月)からの臨床実習レビューについて
10. 手術室実習におけるスマホ、タブレットの持ち込み禁止について

第3回 臨床実習委員会

日時:令和5年9月6日(水) 17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 2023年度11月以降の臨床実習シラバスと評価表・実習スケジュールについて
2. 11月5日からの臨床実習レビュー(5学年)
3. 2023年10月30日からの臨床実習オリエンテーション・各科の説明会について
4. 臨床実習Ⅱ教育連携病院の受け入れ・割り当て状況と連携病院会議
5. 臨床実習の患者包括同意

第4回 臨床実習委員会

日時:令和5年11月1日(水) 17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 10月30日からの臨床実習Ⅰについて
2. 10月24日、11月1日実施の教育連携病院会議の報告
3. 臨床実習におけるCC-EPOCとログブックの活用法について(池田先生)
4. 臨床実習におけるMini-CEX実施とCC EPOC活用をお願い
5. 臨床実習Ⅱ教育連携病院実習における学生評価について
6. CC-EPOC 入力状況報告

第5回 臨床実習委員会

日時:令和6年1月9日(火) 17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. CC-EPOC の動向
2. 3月の臨床実習レビュー(4学年)について
3. 教育連携病院の疾患調査
4. 学生教育に関するアンケート
5. 臨床実習で用いているルーブリック評価について
6. 教育連携病院での学生当直について
7. 臨床実習 I 11月～12月の評価シート記入のお願い
8. 臨床実習における学生への配慮について

第6回 臨床実習委員会

日時:令和6年3月6日(水) 17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 5学年臨床実習レビュー
2. 4学年臨床実習レビュー
3. 臨床実習改革について
4. 臨床実習II実習先(第4～第6クール)について 資料4 第4～第6クール実習先一覧
5. 4月以降の臨床実習I・IIIについて
6. CC-EPOC について
7. WpBA に関するアンケート
8. 臨床実習における医行為実施状況調査の結果
9. 令和6(2024)年度臨床実習委員会予定
10. 教育アウトカム別評価について(11-12月の集計)

[委員会報告]

医学部FD委員会

医学部FD委員長

医学部教育センター 教授

三井 良之

FD委員会は年度末に1年の活動計画を総括し、次年度の研修内容を決定するための会議を開催するが、それ以外は不定期の開催である。2023年度の定期会議は2024年3月11日(月)に開催された。昨年度からFD参加率を向上させるため、受講しない教員の人数に応じて、各講座の研究費が減額される制度を導入したところ、昨年度は92%で、本年度は3月30日時点で96%であった。病院内e-learning system Glexa を利用し、オンデマンド視聴を可能にしたことも、受講率向上に寄与したものと考える。令和6年度は、毎年行われる新入職者向けの本学の教育に関するFD、チューター養成講座のほか、JACME受審に向けた講演、定期試験作問技法の充実に向けたFD等を企画している。

第1回 FD委員会

日時: 令和6年3月11日(月) 16:30～17:00

場所: Zoom会議

議事:

1. 令和5年度のFD研修会受講状況
2. 令和6年度のFD研修会日程と演題について

[委員会報告]

地域医療教育委員会

地域医療教育委員長

杉本 圭相

近畿大学医学部では、2010年度から地域枠入学制度が導入され、医師偏在地域の課題解決に継続的に寄与している。一方で、途中辞退となる学生も一定数存在するため、地域枠学生、および地域枠以外の学生における地域医療教育への一層の理解と参画が求められる。

そのため、本委員会では、本学医学部学生に対し、①各自治体から地域医療の現状、医師の必要性、現在活躍している医師の紹介などを通じた大学内外の組織や地域との連携強化、②地域枠の卒業生より地域医療の実践を講義してもらい、将来の自分を想起することを促進させるような将来のロールモデルの形成、③診療所における実習などにより、地域の中での診療所の役割を学び、住民対象の健康教育に参加することで予防医学の概念を学ぶ多職種連携教育を推進するため活動している。

第1回 地域医療教育委員会

日時: 令和5年9月20日(水) 17:30~18:30

場所: Zoom会議

議事:

1. 地域医療教育の実施について

地域枠学生への継続的な関わりを強化するとともに、地域枠以外の学生も含めた地域医療の推進を目的とし、令和6年度カリキュラムに組み込む地域医療教育について具体的な内容を議論した。そのうえで、概要としては、以下のようなプログラム案が提案された。

1年生 オリエンテーション(静岡県)、地域包括ケア実習

2年生 地域包括ケア(近畿厚生局)、医師会の役割・地域医療(大阪府医師会)

3年生 赤井靖宏先生(奈良県の地域医療)、竹村司先生(和歌山県の地域医療)

4年生 串本実習(和歌山県)

5年生 串本実習(和歌山県)、近大奈良病院実習(奈良県)

6年生 地域医療実習(静岡県)

※プロフェッショナリズム講義内で実施

上記を進めるにあたり、以下に留意

- 大阪府内で、総合診療科がある病院での実習として、大阪府キャリアセンターに打診
- 1~3年生の間に、各地域へ出向く機会をもうけ、静岡県をロールモデルとし、静岡県卒前支援プランなどを参考に進める。

[委員会報告]

学生生活委員会

学生生活委員長

橋本 衛

新型コロナ感染対策の緩和とともに、医学部生の学生生活も徐々にコロナ前の状況に戻りつつあります。クラブ活動では、4年ぶりに夏季西医体が開催され、多くの学生が大会に参加しました。また前年度から制限付きで再開されていた金剛際も、本年度はコロナ前とほぼ同じプログラムで開催することができました。春と秋の保護者懇談会は引き続きZoom会議となりましたが、個別面談については保護者からの要望に応え、オンラインと対面とを併用する形で実施いたしました。

学生のサポートとしてメンターの役割が年々重要となっています。そこでメンターの業務をより具体的に提示するとともに、メンターの業務負担を軽減するため、メンターの活動指針を改定しました。学生のメンタル面へのサポートとして、メンタル面に不調のある学生を早期発見(二次予防)するため、University Personality Inventory (UPI)を実施しました。本年度は1学年のみへの実施でしたが、次年度以降は対象を全学年に拡大しUPIを実施する予定です。生活面へのサポートとして、これまでは全学部生を対象に作成されていた学生生活ハンドブックを、医学部生用の内容に改定しました。学修面へのサポートとして、医学部生の研究活動を奨励することを目的として、医学部生が学会発表のため学会に参加する際の経費を補助する制度を開始しました。

第1回 学生生活委員会

日時: 令和5年4月12日(火)17:00～

場所: Zoom会議

議事:

1. 保護者懇談会(春)について
2. その他報告事項

第2回 学生生活委員会

日時: 令和5年5月10日(火)17:00～

場所: Zoom会議

議事:

1. KINDAI病院奨励賞募集について
2. 新型コロナに関する学生の感染対策等の緩和について
3. 学生代表者会議の開催について
4. UPIの実施について
5. その他報告事項

第3回 学生生活委員会

日時:令和5年6月13日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 金剛祭テーマと実施について
2. IFMSA-Japan留学生の受け入れについて
3. KINDAI病院奨励賞の追加募集について
4. その他報告事項

第4回 学生生活委員会

日時:令和5年7月11日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 夏休み前諸注意事項について
2. その他報告事項

第5回 学生生活委員会

日時:令和5年9月12日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 金剛祭の実施と企画案について
2. 保護者懇談会(秋)の実施について
3. 新入生学外オリエンテーションの可否について
4. 医学部生海外研修の実施と海外学生の受け入れについて
5. 部活動公式戦登録の変更について
6. その他報告事項

第6回 学生生活委員会

日時:令和5年10月10日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 謝恩会の実施について
2. メンターの活動指針の改定方針について
3. その他報告事項

第7回 学生生活委員会

日時:令和5年11月9日(木)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. メンターの活動指針の改定について
2. その他報告事項

第8回 学生生活委員会

日時:令和5年12月12日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 海外派遣プログラム選考について
2. 新入生オリエンテーションのプログラムについて
3. 2～6学年新年度オリエンテーションのプログラムについて
4. 学生生活ハンドブック素案について
5. その他報告事項

第9回 学生生活委員会

日時:令和6年2月13日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 校友会長賞、学友会活動功労賞の推薦者について
2. 医学部生の学会発表の際の補助に関する規定について
3. メンター活動指針の改定について
4. 学生支援組織図の作成について
5. その他報告事項

第10回 学生生活委員会

日時:令和6年3月5日(火)17:00～

場所:Zoom会議

議事:

1. 令和6年度メンターの人選について
2. 学生支援組織図について
3. 近畿大学医学部学生行動規範の変更について
4. 学生のネームカードの着用について
5. その他報告事項

[委員会報告]

学修支援委員会

学修支援委員長

栗田 隆志

I. 低学年(1～2年生)への対応

1. アンケート調査の実施

教育専門家(社会構想大学院大学 松本朱実先生)の指導の下、アンケート調査票を作成し、1, 2年生全員(留年生も含める)の学修に関する姿勢、意欲、得手不得手な科目などを調査し、指導に役立てることとした。学生にとっても自身による振り返り(達成度の確認)ができるシステムを目指している。

2. 成績不振者の抽出方法と特別指導教員

① 1学年

□ 留年生への対応

- 前年度3月の学修支援委員の会議にて留年生全員について4月から特別指導体制に組み入れることを確認する。
- 特別指導に該当する学生をメンター制度から特別指導体制に変更する旨を学生生活委員会に伝える(同委員会との合同会議は不要とし、報告のみとする)。

□ 新1年生への対応(第1回選出作業)

- 入学後の小テスト、レポート作成、出席率などからハイリスク学生を5月末までに抽出する。
- 特別指導教員会議において新規に該当学生を抽出し、学生生活委員会にメンター制度からの移動を報告する。

□ 第2回選出作業(非留年生)

- 8月下旬に前期科目の成績が明らかになるため、それに基づいて2回目の成績不良者の選定作業を行い、学修支援委員会管理とする。
- 上記の内容を学生生活委員に報告する。

② 2学年

□ 留年生への対応

- 前年度3月の学修支援委員の会議にて過去の留年経験者全員(1年次留年含む)を4月から特別指導体制に組み入れることを確認する。

□ 新2年生(留年非経験者)への対応(第1回選出作業)

- 1年次、特別指導体制管理であった学生は原則として全員、同管理体制とする。
- 5月に行われる生化学、分子生物学試験の双方を不合格となり、かつ、生化学の成績が不良のものについて特別指導体制へ移行する。

□ 新2年生(留年非経験者)への対応(第2回選出作業)

- 7月中旬に機能Iの試験結果が明らかになるため、これを基に第2回目の成績不良の選定作業を行い、学修支援委員会管理とする。

3. 松田教授によるCRACKの開催

学修に関する相談や質問を自由にできる環境を松田教授が整え、ほぼ毎日、放課後に学生が集まるCRACKを開催中である。

II. 3年生

1. 1～2年次に学修支援委員会管理であった新3年生については学生生活委員にこれまでの指導内容などの情報を伝える。適宜、学修支援委員長が学生生活委員に出席し、メンターによる活動報告を依頼する。
2. CBT全員合格を目標に、4月からCBTビデオ講座を全員に提供し、勉強のサポートを行う。
3. 夏季休暇前にユニット試験(本試)の不合格科目が半数を超えている学生に関して学生生活委員とデータを共有する。

III. 4年生

1. 学修支援委員会がIR委員会に依頼し、CBT得点とその後の学生の進級、卒業、国試合格率の関連が解析された。その結果、下位20位の学生については個々の学生に関する今後の予測進級率などを具体的に示した手紙を手渡しで配布した。

IV. 5年生

1. 成績不振学生選定方法
 - 8月にMEC作成の内科実力テストを施行し、下位30名をSクラスとする。
2. Sクラス対策
 - 内科実力試験の結果を解析し、苦手科目と科目内の領域を明らかにする。
 - 9月からのSクラスの前半に内科系講義を集中させ、講師には試験問題とSクラス学生の苦手とする領域を周知し、弱点克服を目指した講義とする。
 - 学生からの評価はおおむね良好であるが、Sクラスの受講を学生にとって魅力的なものとする努力を今後も続ける必要がある。

V. 6年生

1. 成績不振学生選定方法
 - 前年度1月にMEC作成の進級テストを施行し、下位30名をSクラスとする。
2. Sクラス対策
 - 11月のTECOM試験、1月の進級テストの結果からSクラス学生の苦手科目と科目内の領域を明らかにする。
 - Sクラス講師には苦手科目と領域を周知し、弱点克服と称したSクラス講義を企画する。
 - 5年生と同様にSクラスを学生にとって魅力あるものにするよう努力を続ける。

VI. 学修支援委員会

2か月毎に1, 2年合同の学修支援委員会(教務委員長、学習支援委員長・副委員長、学生主任・副主任)を開催し、情報の共有と学修支援活動の進捗状況を確認する。討議内容は下記を中心とする。

- 1 事例の共有と問題点の検討
- 2 有効な指導方法の共有(教育専門家の招聘)
- 3 学修支援の効果判定
 - 1～2年生
 - 定期試験の成績評価
 - 特別指導を要する学生の割り出し方法の妥当性評価
 - 年度末における特別指導対象学生の進級率と成績順位の評価
 - 3～4年生
 - CBT, OSCEの合格率の評価
 - 5～6年生
 - Sクラス対象者の進級率と成績順位(6年生は国家試験合格率)の評価
 - Sクラス対象へのアンケート調査
 - 試験の成績推移の評価
- 4 支援システムの改善
 - 上記の効果判定に基づいて、適宜、学修支援方法などの改革を不断に行う
 - 学修支援委員会の活動指針の策定と改訂
 - 教育の専門家の意見と指導による改革

V. 個人情報保護

特別指導教員は指導上知り得た学生の個人情報について守秘義務を負う。これに関する同意書・誓約書に署名・捺印をして頂く。

VI. その他

ユニット講義およびSクラス講義における学生教員評価に依拠してBest teacher賞とGood teacher賞に該当する教員の推薦。

[委員会報告]

医学基盤教育委員会

医学基盤教育委員長

医学基盤教育部門 教授

松田 学

本年度は2回の医学基盤教育委員会が開催され、1学年教養・語学・基礎教育の教務日程の調整などに関わる通常業務に加え、本年度は医学教育新モデル・コア・カリキュラムおよび新教育アウトカムに対応した令和6年度からの教育体制に関わる調整が行われた。医学外の教員が科目責任者を務める共通教養科目のサポート体制が築かれた。また、放課後の自主学修を促すためのThe CRACK (The Classroom After Classes in Kindai)の開設と運営方針について話し合われた。

第1回 医学基盤教育委員会

日時: 令和5年7月6日(木) 17:00～

場所: Zoom会議

議事:

1. 今年度のこれまでの授業運営
2. 高校理科の履修に関する入学時アンケート結果
3. 入学時TOEFL試験実施と結果
4. 選択科目の選択状況
5. オンデマンド科目の選択・出席状況
6. 学修支援対応_特別指導体制と放課後学修室The CRACK
7. 後期の教務スケジュール確認
8. 医学外の講師による授業内アンケートへの対応
9. 医学基盤教育の教員配置について
10. 定年が見込まれる共通教養科目担当者への対応
11. 新アウトカム10(IT)への対応について

第2回 医学基盤教育委員会

日時: 令和5年10月3日(火) 17:00～

場所: Zoom会議

議事:

1. 1学年前期成績と今後の学修支援体制
2. 後期のこれまでの授業運営
3. 情報・科学技術教育プログラム
4. 令和6年度1学年時間割
5. 令和6年度1学年科目の基盤教育部門によるサポート体制

[委員会報告]

医学部 IR 委員会

医学部 IR 委員長

公衆衛生学教室 主任教授

今野 弘規

医学部IR委員会の活動

1. アンケート実施の審査・許可

- 23001こころとからだの健康調査 (UPI)
依頼者: 医学部安全衛生管理センター保健管理室 和田奈美子
依頼日: 令和4年4月3日
→ 審議対象外
- 近畿大学学生人権意識調査
依頼者: 近畿大学人権問題研究所 北口、末広
依頼日: 令和4年7月5日
→ 審議対象外
- 23005生涯キャリアヒストリーから再考する医療者自身の生涯教育方法の構築
依頼者: 産婦人科学教室 貫戸明子
依頼日: 令和5年1月6日
→ 許可

2. 各種委員会への参加および報告

報告先

- 教務委員会および定例教授会 (6月, 7月, 10月, 11月, 2月)
- 医学部教育評価委員会 (7月)
- 医学教育センター会議 (4月, 7月)

報告内容

- 入試成績と入学後の成績との相関
- 各科目成績と全科目・総合試験・CBT成績との相関
- 1-4学年の学年別にみた各科目成績とCBT・総合試験・MCQ判定1スコアとの相関
- 地域枠・非地域枠別成績
- 国試成績と6学年成績との相関
- 2022年度実施卒業生アンケート集計結果
- 2022年アウトカム改訂に伴うアンケート集計結果 (教育連携病院、患者・地域住民)
- 5学年進級学生におけるCBT-IRTとその後の成績

第1回医学部 IR 委員会

日時: 令和5年3月26日 (火) 10:00～

場所: 研究棟 6F 公衆衛生学カンファレンス室

議事:

1. 教育アウトカム評価の比率について
 - 1-4学年の教育アウトカム評価の算出法と結果について報告。
2. 今後の教学アンケート調査について
 - 実習終了後の各科アンケートを集約し、IR委員会への報告とIR室でのデータ管理を必須化し、共通フォーマット提供を検討する。
3. 分野別認証評価報告書(領域7 教育プログラム)について
 - 進捗状況の報告と今後必要となる事項 (DREEM調査の公開、卒業生アンケートの継続的調査の必要性) について協議。
4. その他
 - IR委員会への解析依頼用様式およびアンケート調査の審議依頼について、Slack等を通じて全体にアナウンスしていく。

[教育関連学術業績]

論文

Y Ikeda (2023). Improving Report and Attitude Assessments in Professionalism Education for First-Year Medical Students. *Journal of Medical Education* 27:147-155

[教育関連学術業績]

著書

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「生物」東京書籍(2023)

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「生物基礎」東京書籍(2023)

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「新編生物基礎」東京書籍(2023)

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「生物」東京書籍(2023)

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「生物基礎」東京書籍(2023)

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「新編生物基礎」東京書籍(2023)

ダニエル・ヴェラスコ「コミュニケーションのための医学英語 Medical English for Communication」ISBN:978-4-254-30128-1、朝倉書店(2024)

Daniel Velasco「Comparative Culture and Society 2e」LibreTexts(2024)

[教育関連学術業績]

学会発表

第55回日本医学教育学会 2023年7月28日~29日 長崎市
多職種連携教育における動画トリガーシナリオの効果
Effects of Video Trigger Scenarios in Interprofessional Education
池田行宏、三井良之、藤田貢、平野豊、有馬秀二、梶博史、松村到
近畿大学医学部

[背景・目的]

IPE (Inter-Professional Education: 多職種連携教育) は高齢化社会における医療専門職教育として英国で始まった。この教育手法は、すべての学部におけるプロフェッショナルリズムを涵養する教育方法として有用であると考えられている。近畿大学は15学部 49学科を擁する総合大学であることから、このIPE教育を実施しやすい状況にあり、過年度より実施してきた。今回の報告では看護専門学校との多IPEにおいて、トリガーシナリオに動画 (You tube) を使用、学生への影響、効果を検証することを目的とした。

[方法]

2021年~2022年度の教育実施後アンケートより、疾患、医療現場の状況に対する学生自身の理解度について、漫画と動画のトリガーシナリオに差があるか比較した。

[結果・考察]

すべての項目において5: 強く思う~1: 全く思わない、の5段階Likert scaleにより回答を得た。研究実施に同意した360名 (2021年度182名、2022年度178名) の回答を分析対象とした。「漫画を教材としたことで疾患に対する理解が深まりましたか」という項目について、看護学生は35.9%、医学部生は34.0%が「強くそう思う」と回答。「漫画を教材としたことで医療現場への状況の理解が深まりましたか」という項目について、看護学生は36.6%、医学部生は32.1%が「強くそう思う」と回答していた。一方、「You tubeを教材としたことで疾患に対する理解が深まりましたか」という項目について、看護学生は56.6%、医学部生は51.2%が「強くそう思う」と回答。「You tubeを教材としたことで医療現場への状況の理解が深まりましたか」という項目について、看護学生は55.2%、医学部生は48.8%が「強くそう思う」と回答していた。IPEにおいて、動画によるトリガーシナリオの提示は学生にとって、静止画 (漫画) と比較して、より理解が深まると捉えられていた。今後は教育成果の検証を実施し、トリガーシナリオの提供手法を考えていくことも必要である。

AMEE 2023, Glasgow, UK. 27-30 August 2023.

Does hospital art class have a positive effect on students' empathy?

Yukihiro Ikeda¹, Yoshiyuki Mitsui¹, Yutaka Moriguchi²

1. Kindai University Faculty of Medicine, Osaka-sayama, Japan

2. Kindai University Faculty of Literature, Arts and Cultural studies,
Higashiosaka, Japan

[Background]

Since the 2000s, art education has been introduced into the field of medical education, mainly in Europe and the United States, and reports have been made on its educational practices. Therefore, in this report, we conducted a class named "Hospital Art" for the first time in Japan and verified whether it affected students' empathy and impacted the professional education that was implemented after that.

[Summary Of Work]

In 2022, for the first-year medical student, we conducted a class called "Patient Care through Hospital Art." Using the multidimensional empathy scale and the Jefferson Scale of Physician Empathy, we measured the empathy of all the students who chose this course and all the students who did not and examined what kind of influence it had on subsequent professionalism education. Of the 113 students in the first grade, 22 took the hospital art course. The Multidimensional Empathy Scale was taken once in September after class. The Jefferson Scale of Physician Empathy was taken at the beginning of the new fiscal year (April 5), before the start of the Professionalism class in September (September 12), and after the Professionalism class (September 22).

[Summary Of Results]

According to the multidimensional empathy scale, hospital art students showed a higher score in the following three items. "When criticizing others, we cannot think about their position." "When we see or hear that people are doing their best, we want to support them, even if it has nothing to do with us", and "Never be swayed by other people's emotions."

[Discussion And Conclusion]

The Jefferson Scale of Physician Empathy did not show statistically significant differences in all three times measurements, but hospital art students scored higher. Especially in September, the difference between the two at the start of the professionalism class was wide, indicating that the attendance and experience of hospital art positively affected the readiness when taking the professionalism class. In the future, we will continue to follow up on students

and consider whether we can see not only short-term effects but also long-term effects.

[Take Home Messages]

Japanese medical students also showed that taking hospital art classes may have a positive effect on professionalism education.

第69回日本学校保健学会 2023年11月11日~12日 東京都
プログラム化された性教育と性感染症発生率、人工妊娠中絶率の関係

池田行宏¹, 岡山睦美², 巻島愛³, 石井里佳⁴

1. 近畿大学医学部
2. 十文字学園女子大学
3. 旭川医科大学
4. 群馬大学

[目的]

我が国では性教育バッシングがあった2002年以降、性教育に対する教育は委縮している。また教育プログラムとして実践的なものが少なく、現状に即していないと言われている。そこで、有効な教育手法とは何かを探るため、性教育先進国であるカナダと比較し、教育とsexual healthの関係を考察する。

[方法]

日本は文部科学省、厚生労働省、カナダはHealth Canada, Abortion Rights Coalition of Canadaのウェブページに公表されている資料を入手、2010年~2019年のデータを比較した。

[結果・考察]

教育について、日本もカナダも小学4年生から実施されていた。内容はカナダのほうが圧倒的に充実。教員のためのガイドや、授業資料、学年別に学ばせるゴールも明確に示されていた。日本はSNSの普及に代表されるように取り巻く情報環境や状況が変化しているにも関わらず、性教育については未だ「はどめ規定」が存在していた。一方、性感染症発生率や人工妊娠中絶率について、日本の性感染症発生率は近年増加している梅毒以外は不変、人工妊娠中絶率は単調減少。カナダの性感染症発生率は単調増加、人工妊娠中絶率は不変であった。性教育のゴールは何なのか、青少年はすでに全員起きているが、まだ「寝た子を起こさない」ほうが良いのか、心の発達、不安や悩みなどへの対処は十分か、教育の成否はどのように評価するのが良いか、といった様々な課題が考えられる。

The 4th Southeast Asian Conference on Education.
Cultural Literacy, Intercultural Communication and Teachers in Thailand and
Japan. Chang Mai, Thailand, Feb. 15-19, 2024

近畿大学 総合社会学部 教養・基礎教育部門 Richard H. Derrah
関西外国語大学 J. Scott Shinall
近畿大学 経済学部 教養・基礎教育部門 Peter Ferguson
近畿大学 医学部 医学基盤教育部門 Phillip M. Clark

[Background and purpose]

With globalization and the increase in the demand for English language education, large numbers of teachers from various countries have come to work in Thailand and Japan as English teachers. For these teachers issues of cultural literacy and intercultural communication can be problematic. This presentation reports on a series of interviews with teachers in Thailand and Japan investigating issues these teachers have encountered concerning cultural literacy and intercultural communication. In addition, survey results measuring intercultural sensitivity will also be discussed. These results are part of a larger research project investigating cultural literacy and teacher training within Thailand and Japan.

[Methods]

The presentation consisted of four parts: Overview, Discussion of foreign Thai university instructors of various levels, discussion of foreign Japanese secondary and elementary school teachers, and discussion of foreign university teachers in Japan. The various components reported the qualitative framework and interviewing methods of the study.

[Conclusion]

The presentation had fifteen attendees from various countries. The bulk of the presentation was on Thai education, with my discussion of foreign instructors in Japan coming at the end. I discussed my ongoing qualitative study with R. Derrah, which involves interviewing a number of foreign teachers teaching primarily language classes in higher education in Japan. This study is continuing and has not yet reached any empirical conclusions but the plan is to expand what is now a forthcoming book chapter (it is being edited currently) into a larger book.

The 38th (2023) Annual Conference of SIETAR Japan.
Practicing Empathic Active Listening.
National Olympic Memorial Youth Center (the Yoyogi Olympic Center), Tokyo,
Japan.
November 11-12, 2023.

Daniel Valasco
Kindai University Medical School

[Abstract]

Communication is often described as a “two-way street”—a verbal tennis match that requires active participation from all parties involved. When studying or teaching effective communication skills, much focus falls on the important of the speaker. Expanding vocabulary to sound more intelligent, becoming a more eloquent speaker, improving vocal strength, enhancing pronunciation for added clarity, and projecting an image of strength and confidence are just some of the topics that dominant communication practice and training. Although these are all important aspects of the conversation process, is it possible to learn how to be a better conversationalist through learning how to be a better listener? This brief workshop will discuss the concepts of active listening and empathic listening, and introduce participants to an activity that will help students, teachers, administrators, and counselors become more empathic, active listeners. Grounded in Positive Psychology, which will also be briefly covered, this activity utilizes an instrument titled the “Worries Survey” to provide an opportunity to not only listen, but also to be heard.

[教育関連学術業績]

講演・ワークショップ

池田行宏「OSCEの運営の基本を教職協働で考える」
国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修共同企画
MEDC第85回 医学教育セミナーとワークショップ (2023年5月24日~26日)

松田学 「みんな違ってちょうどいい__個人差のわけと個別化医療」
近畿大学医学部オープンキャンパス模擬講義
近畿大学大阪狭山キャンパス (2023年7月31日)

丸上はるか、日野貴一郎、西村礼奈、(引率)松田学「近大医学部カレッジラボ__未来の地域とウェルビーイング」
『脈博2023』内セッション『キミが描く宇宙の暮らしと医療』
福岡ドーム (2023年8月5-6日)

岡田清孝、白石浩平、小川智弘、近畿大学工学部学生3名「夏休み理科おもしろ実験教室 血液の中をのぞいてみよう!、燃料電池のしくみを理解しよう」
令和5年度兵庫県赤穂市立中学校夏休み理科おもしろ実験教室、兵庫県赤穂市立中学校理科教育研究部会主催(赤穂市教育委員会協賛)
兵庫県赤穂市立有年中学校 (2023年8月8日)

岡田清孝、博多義之、医学部1学年学生4名「理科おもしろ実験教室 いろいろの色をまぜあわせてみよう! (水と油はまざらない)」
令和5年度大阪狭山市立第七小学校第1回理科おもしろ実験教室(3年生92名)
大阪狭山市立第七小学校 (2023年9月1日)
<http://dai7-es.osakasayama.ed.jp/index.cfm/1,9887,35,html>
<http://dai7-es.osakasayama.ed.jp/index.cfm/1,9652,c,html/9652/20231003-162301.pdf>

松田学 「みんな違ってちょうどいい__個人差が拓く未来の医療」
ワカモノ未来共創部主催 未来共創スタディツアーREADYFOR ワークショップ
近畿大学医学部大阪狭山キャンパス (2023年10月20日)

岡田清孝、博多義之、医学部1学年学生4名「理科おもしろ実験教室 色をろ紙の上で移動させてみよう! (ペーパークロマトグラフィー)」
令和5年度大阪狭山市立第七小学校第2回理科おもしろ実験教室(6年生29名x3回)
大阪狭山市立第七小学校 (2023年11月1日)
<http://dai7-es.osakasayama.ed.jp/index.cfm/1,9887,35,html>

Velasco, Daniel. Positive Japanese Psychology: Strategies to Promote Self-Awareness and Autonomy.

RILAE (Research Institute for Learner Autonomy Education) Lab Sessions,
Kanda University of International Studies (2023年11月17日)

松田学「医療イノベーション学・カレッジラボ 医学生を地域で育てる」

ひと・まち・未来研究会

大阪府大阪市地域計画建築研究所 (2023年11月21日)

[教育関連学術業績]

その他

池田行宏・三井良之・平野豊・藤田貢
教育関連病院出張FD:21回
教育連携病院におけるCC-EPOCの開始

池田行宏
2023年度第7回FD研修会
CC-EPOC1年目の振り返り:教育連携病院への導入に向けて

池田行宏
2023年度第9回FD研修会
改訂モデルコアカリキュラムに対応した医学部新教育アウトカムと学修を促進するシラバスの作成

編集後記

医学部教育センター紀要 編集担当

医学部教育センター 准教授

藤田 貢

令和5年度、私たちは医学教育の質のさらなる向上を目指し、教育内容の革新、教育方法の改善、そして学生支援体制の強化に注力しました。特に、デジタル技術の活用拡大や、新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン授業の充実が挑戦となりました。これらの取り組みは、時に試行錯誤を伴いましたが、教員と学生の双方にとって新たな学びの機会を提供することができました。

医学部教育センターでは、オンラインと対面授業のハイブリッド形式を取り入れることで、柔軟な学習環境を整える試みを行ってきました。また、学生主導のプロジェクトや地域医療への参加を促すことで、学生の自主性と実践力を養うことにも力を入れてきました。これらの経験は、学生が将来の医療人として必要とされるスキルや価値観を身につける上で重要なものです。

近年の新型コロナウイルス感染症の影響による対面での実習や海外交流の制限は、教育プログラムにとって大きな障壁でありました。このような状況下でも、学生と教員が一丸となって乗り越え、学習の継続を図ることができたのは、医学部教育センターの強固なコミュニティの力の現れです。

来年度に向けては、教育内容のさらなる充実、学生の支援体制の強化、そして地域社会との連携を深めることを目標としています。また、医学教育における新たな課題に対する研究活動も積極的に行っていく予定です。これらの取り組みを通じて、医学部教育センターは医学教育の未来を切り開いていきたい所存です。

編集を通じて、医学部教育センターの活動の幅広さと深さを再認識するとともに、医学教育の未来に向けた新たな一步を踏み出すことの重要性を感じています。この紀要が、医学教育の発展に寄与することを願いつつ、ご協力いただいたすべての方々
に心からの感謝を申し上げます。

令和5年3月吉日